

アルベール・カミュの『異邦人』を精読する レジюме

モーゼの十戒 (カトリック)

わたしはあなたの主なる神である。

1. わたしのほかに神があってはならない。
2. あなたの神、主の名をみだりに唱えてはならない。
3. 主の日を心にとどめ、これを聖とせよ。
4. あなたの父母を敬え。
5. 殺してはならない。
6. 姦淫してはならない。
7. 盗んではならない。
8. 隣人に関して偽証してはならない。
9. 隣人の妻を欲してはならない。
10. 隣人の財産を欲してはならない。

(以上 ウィキペディアより)

『最後の審判』について

キリスト教では、世界の終わりにイエス・キリストが再臨し、あらゆる死者をよみがえらせて裁きを行い、永遠の生命を与えられる者と死ぬ者に分けるといふ。

『原罪』について

イエスは、ユダヤ教の律法を守れない庶民に、神の信仰と隣人愛こそが重要だと説いた。

パウロの回心

ユダヤ教徒であったパウロは回心しキリスト教に改宗。

「人の義とされるのは、律法の行いによるのではなく、信仰による」

(ローマ人への手紙 3-28)

パウロは、律法の遵守を全否定した。

旧約聖書『創世記』のアダムとイブは禁断の実を食べたためにエデンの園から追放された。

その時、神から人間に、『原罪』として、
善悪の基準として『理性＝言語』と『欲望＝本能』が与えられた。(創世記 第三章)

人間には神から与えられた原罪がある。つまり不完全な存在である。必ず罪を犯してしまう。
『原罪』のある人間には、十戒や律法を守れるわけがない。

内面の善悪と、現実世界の善悪は、常にズレている。
人は自分が原罪を背負った存在だと自覚すると、自分の力だけでは救われないことを痛感する。

だからそこではじめて、神を心の底から信じるようになる。

人間は、信仰によってのみ救われる。

なぜ、信じさえすれば、神は罪深き人間を救ってくださるのか。

それは、イエス・キリストは、十字架の上で死ぬことによって、
本来、人間の背負っているアダムとイブ以来の『原罪』を贖（あがな）ってくださったからだ。

これによって、人間は神の恩恵によって救われるようになった。

改悛や懺悔・告解が重要なのは、罪悪感を認めた人間が、正直に告白することが

心のなかの善悪の基準を明らかにして、信仰を確認する作業であるからである。

(ここで、神を信じていないムルソーが、改悛しない理由が明らかになる。)

イエスの贖罪によって人間の原罪が解除されたとするなら、信仰すら意味が無いのではないか？

原罪がなく、黙っていても救われるのなら、どうして信仰しなければならないのか？

参考文献 小室直樹著 『日本人のためのイスラム言論』 集英社インターナショナル刊

神の国 (Divinity)

キリスト教の内面の善悪

理性 = 言語

罪悪は状況の偶然的産物
「太陽のせいだ」

善

改悔して、神を信じること
十戒を守ること。人間を誠意から愛すること
神の名において恩赦を与えること

悪

母親の死に際して喪に服さないこと
酒に酔ってアラブ人に残りの銃弾4発を打ち込んだこと
偶然・不運 = チェコの殺人事件
確信的な無信仰・無関心(アンチクリスト)

罪悪感 = 良心の痛みからの改悔 = キリスト教の内面と現実の善悪の基準のズレ

キリスト教の分けた線(近代人の善悪の基準)

欲望 = 本能・感情

死刑確定後に
生き返ること(復活)
「世界のやさしい無関心」

善

(露悪 = 形式的信仰)

弁護士が代弁したムルソーの心理
社会秩序を守るための責務 = 形式的な信仰
フランス人民の名において死刑を宣告すること
悔恨の情を示して、情状的量されること

信仰がなければ理性(魂)もない。よって狂人(異邦人)である

悪

(偽善 = エゴ)

自衛権の行使としてアラブ人を1発撃つこと
女衛であるレエモンとの友情
母親を養わずに、養老院に入れたこと
サラマノと犬の関係
情婦マリイの肉体を求めること
庶民としてのつつましく勤勉な日常生活

世俗 (Secularity) 裁判所 現実社会の善悪